

ご支援頂いている皆様

平成 23 年 6 月 6 日  
NPO 北九州タウンツーリズム  
代表理事 大内田 佳介

## 「NPO 北九州タウンツーリズム設立記念 北九州着地型観光サロン」 の開催について（報告）

平成 23 年 5 月 28 日（土）「北九州着地型観光サロン～「まち歩き」でまちはどう変わるか？～」(主催：NPO 北九州タウンツーリズム、共催：北九州市にぎわいづくり懇話会、後援：北九州市、(社)北九州市観光協会、北九州商工会議所)を開催いたしました。

おかげさまで、まちづくり団体や商店主、ホテル関係者、旅行代理店、観光ボランティアガイド、大学関係者、大学生、メディア関係者（情報誌、ラジオ）など 67 名（一般申込者 52 名、スタッフ 15 名）の参加により、NPO 北九州タウンツーリズムの紹介、長崎コンプラドールの桐野氏、田中氏による記念講演、並びに交流会を開催しました。

NPO 北九州タウンツーリズムでは、これまで、まちのにぎわいづくり（経済の活性化）に貢献するため、多くの方々に北九州市（小倉都心部）を訪れていただけるよう、「北九州ナイトツアー」事業として体験型まち歩きの開催や夜のまちを紹介するマップの作成など、「北九州の夜のまちの楽しみ方」を提案してきました。この事業も「着地型観光（地域資源を活用して、地域がプロデュースする体験・交流・学習型観光）」の 1 つです。

そこで、昨年度開催の「北九州まちづくりサロン」、「北九州まちたびサロン」に続き、このまち（北九州市）で着地型観光によるまちづくりを行うヒントになればと思い、「長崎さるく」の事例から学ぶ「着地型観光」をテーマにしたサロンを開催しました。

参加者へのアンケートの結果では、「とてもためになった」「観光産業の育成、創出は興味深い」「会場の雰囲気も良かった」「どんどん活動してください」など、とても好評でした。

今後も定期的にサロンを開催し、「多くの方々が交流し、着地型観光によるまちづくりについて語り合う場」を提供し、サロンの参加者の中から着地型観光を企画する方が現われればと思います。

私たち NPO 北九州タウンツーリズムは、『もっとワクワクドキドキするまち』を目指して、様々な事業に取り組んでいく所存です。今後とも変わらぬ皆様の温かいご支援を賜りますようお願いいたします。

### 北九州着地型観光サロンの概要

(1) 開会 (15:00～15:05)

(2) NPO 北九州タウンツーリズム紹介 (15:05～15:30)

代表理事挨拶、これまでの歩み、新団体の活動紹介、メンバー紹介

(3) 記念講演 (15:30～16:40)

講師：特定非営利活動法人長崎コンプラドール 理事長 桐野耕一氏、事務局 田中潤介氏

聞き手：NPO 北九州タウンツーリズム 代表理事 大内田 佳介

#### 講演概要

<「長崎さるく」が成功したポイントについて>

- ・ 人財があったことが大きい。携わりたいと思う方、お節介が好きな方が多かった。（長崎市民の DNA かも知れない）

- ・しかし、市民は想いがあってもやり方が分からない。それを、プロデュースできる茶谷氏というプロフェッショナルがいた。(PPPには4つ目のP(プロフェッショナル)が必要)
- ・「専門的な説明ではなく、お客さんを道案内するだけでよい。」というメッセージが、参加する敷居を下げ、多くの方がかかわることができた要因。
- ・極端な話、誕生日パーティーであっても、「さるく」としてやって良い。ただし、自分で企画して自分でやる。
- ・すべては市民が主役であり、行政は徹底的に黒子になった。この結果、市民同士の深いコミュニケーションが生まれた。
- ・以前から活動していた観光ボランティアガイドの方々には、アカデミックな説明をよしとする方も多く衝突もあったが、道案内的なまち歩きを体験してもらおうと徐々に認めてもらえるようになった。最終的には、観光ボランティアガイドの方々がいないと成り立たなかったとも思う。
- ・「さるく博」が終わったあとも、500人くらいの人が残った。「まち歩き」だった「さるく」を、市民が加工して使い始めた。「食さるく」など「さるく」として。
- ・ホップ(事業趣旨の周知)、ステップ(モデル事業の実施)、ジャンプ(自主的な広がり)の3段階で事業を行った。
- ・年賀状などを活用した「長崎からの手紙」もPR効果が高かった。

#### <まち歩きのポイントについて>

- ・まち歩きによって、地元の魅力に気づき、気づきは愛着に繋がる。そして、考えがぶれなくなる。
- ・案内はアテンダーであり、地元の方とつなげることが役割。(次にくる時にはそのお店にひとりでも行けるとか、自分が行けなくても第3者にあそこに行くといいよと伝えてもらえることが大事。)
- ・モノを語るよりも、人を語ることが大事。
- ・5分以内の説明で、100の内36くらいの説明でいい。(年号うんぬんの正確な知識を披露するのではなく、楽しんでもらえばよい。)
- ・夫婦でガイドするものもあったが、夫婦喧嘩の次の日が一番面白かったりする。そんな地域の日常を感じられるようなことが、意外に参加者にはうけたりする。

#### <失敗したことについて>

- ・若い人に対して、トップダウンでやりすぎて育たなかったということがある。

#### <他事例について>

- ・青森の弘前での待ち歩き。3~4時間雪の中を歩いたが、極寒の中でも楽しかった。
- ・長崎有家の「おはしで食べられるフレンチ」のように、柔軟な発想も大事。

#### <その他>

- ・収入源となるようなグッズを商品化しよう。(「長崎あい」というバッジを作ったが、好評だった。)
- ・「お金」と「スタッフ」は主催者で、「広報」と「許認可」は行政がバックアップするべきだ。
- ・まち歩きは1人勝ちではダメ。どこの「まち歩き」に行ってもそこそこ楽しめるwin-winの状態になれば盛り上がらない。
- ・11月19日、20日に「まち歩きフォーラム」を開催予定。

(4) 閉会 (16:40~16:50)

(5) 交流会 (17:00~18:00)

北九州着地型観光サロンの状況について 【H23年5月28日開催】

開会前（14:30～15:00）

小倉城庭園書院棟



参加者受付状況（小倉城庭園入口）



記念講演（15:00～16:50）

NPO 北九州タウンツーリズムの紹介



NPO 北九州タウンツーリズム

NPO KITAKYUSHU TOWN TOURISM

記念講演（聞き手：大内田佳介）



サロン会場設営（書院棟）



庭園



プレゼン



記念講演（講師：桐野氏・田中氏）



記念講演（会場の様子）



団体設立のお祝いに頂いたコンプラ瓶



交流会（17:00～18:00）

交流会（冷茶で乾杯）



交流会（歓談）



交流会（歓談）



交流会（講師挨拶）



交流会（おつまみの札）



交流会（おつまみ）

